

2024 年度「FDを推進するための活動補助」報告書

札幌学院大学 FD センター長 殿

2025 年 2 月 14 日

(申請者名)	(複数で申請の場合、参加教員の氏名)
水島 梨紗	
(科目名)	
専門ゼミナール B	
(取組の趣旨、実施計画、今年度の達成目標) の報告	
当プロジェクトでは、経済学部「産業調査演習」との共同企画として、道東でのフィールドワークを実施しました。これにより、これまで英語英米文学科のカリキュラムには含まれていなかった社会調査の実践教育に向けて、教員と学生が共に多くの知見を得ることができました。また、学部・学科を超えた協働学習の可能性を広げる貴重な機会にもなりました。 事前計画にあった(1)町役場や観光施設、市街地における英語表記のニーズ調査および(2)宿泊施設での接客英語の使用状況調査については、標津町、斜里町、羅臼町の各町役場や知床のリゾートホテルのご協力を得て、すべて予定通り実施することができました。特に標津町では、本学科の学生との協議の時間を多く設けていただき、今後、町内の観光施設で使用する英語案内やマニュアルの作成に本学科の学生が関わることが決定したことは、大きな成果といえます。	
(期待された効果、他の授業科目への適用可能性) の報告	
当プロジェクトにおける最大の成果は、本学科の教員と学生が道東地域での調査に参加し、専門性を活かして地域貢献の可能性を探るため、現地の生の声を収集し、具体的な取り組みに繋げることができた点にあると考えています。今回実現した道東地域との連携事業は、2026 年度に本学科が予定しているカリキュラム改革の柱の一つである「地域貢献」を担う重要な取り組みとして、今後も継続して実施していく予定です。 また、今回初めて実施した経済学科と英語英米文学科との合同演習は、専門分野の異なる学生同士が共に学び合う貴重な機会となりました。特に、経済学科生による社会調査の実践を観察することで、英語英米文学科の学生も調査ノウハウを習得できたことは、大きな収穫であったと言えます。異なる学部・学科の専門性を活かしたこのような連携が、今後さらに発展していくことを期待しています。 なお、本プロジェクトの成果については、学科ウェブサイトおよび学科インスタグラムで報告を行い、大学の広報活動にも一定の貢献ができたものと考えています。	
(所要経費及び実施時期) の報告	
当初の予定通り、学生 10 名分の宿泊費および諸経費の半額を事業予算より執行しました。	
(執行経費内訳)	
・ 宿泊費 : 125,000 円	・
・ 諸経費 (高速代、運転手宿泊代、運転手夕食代、有料駐車場代) : 14,300 円	・
合 計 139,300 円	

記述欄が不足する場合は、拡張してください。

提出期限 2025 年 2 月 14 日(金) 17 時